JAPAN HERITAGE
日本遺産

最盛期の生野鉱業所本部（昭和30年頃）

鉱石の道

近代化産業遺産エリア
兵庫県但馬地域【養父市・朝来市】

KOUSEKI NO MICHI GUIDEBOOK

日本を支えた鉱山遺産 明延鉱山・神子畑鉱山・生野鉱山・中瀬鉱山

明延鉱山（あけのべ）・神子畑鉱山（みこばた）・生野鉱山（いくの）・中瀬鉱山（なかぜ）

日本近代化の原点はここにあった

但馬は宝の山 その昔、天下人が欲しがった宝の山
日本初の官営鉱山 東洋一の選鉱場 日本一の錫鉱山 日本一大きな自然金を産出した鉱山

近代化産業遺産
平成19年度 経済産業省

Industrial Heritage Open-air Museum
鉱石の道
産・業・遺・産

マンガで見る鉱石の道！

今日も学校楽しかったね！
このあと何して遊ぶ？
そういえばこれって何だろ…
町中で見かけるよね…
ボクんちでゲームはどう？
よっこいしょ
あれ？
よく気がついたね！
それはカラミ石っていうんだよ！
待ってました！
!?
ドーン!!
はじめまして！ボクは鉱石の道案内人の鉱助くんだよ！よろしくね♪
シュビッ
あやしい…
2人とも朝来市生野町が鉱山の町だったことは知ってるよね？
うん！学校でも勉強したよ
カラミ石は鉱山の廃棄物をリサイクルしたものなんだ家の土台や塀、水路とかで使われてるんだよ！
へー！
見たことある
わあ！浮いた！
さあ！鉱石の道を発見する旅へ出発しよう！
ぴょん!!
ここは養父市の「明延鉱山」！昭和62年まではここでスズがとれていたんだよ！
ボクが乗ってるのは「明神電車」といって明延でとれた鉱石を「神子畑選鉱場」に運んでいた電車だよ！鉱山従業員の通勤や住民の交通手段にもなっていたんだ
運賃が1円だったので一円電車と呼ばれていたんだ
月に一回体験乗車をしてるよね！ボク乗ったことあるよ
朝来市の神子畑選鉱場は明延から運ばれてきた鉱石を選鉱していた施設！東洋一の規模といわれたんだよ さらにここから生野鉱山へ運ばれたんだ
なんかかっこいい
中瀬・明延・神子畑・生野の4鉱山は日本の近代化を支えた貴重な産業遺産なんだ
何千人もの人が暮らしていたのね
スーパーや百貨店映画館などなど…モダンでハイカラなものがたくさんあふれていたんだよ
もっと町のことが知りたくなっちゃった♪
このハヤシライスも鉱山町の文化を復活させたものなんだね
おかわりー！
この4鉱山のエリアは鉱石の道と呼ばれていて周辺にはたくさんの産業遺産が残っているんだ
身近にある遺産をみんなに知ってもらおうと観光や体験施設として活用する取り組みが行われているんだよ
うまうま
もぐもぐもぐもぐ
大盛りっ!!
町の歴史についておじいちゃんやおばあちゃんにいろいろ聞いてみよっと
みんなも調べてみよう！

近代化産業遺産
平成19年度　経済産業省

鉱石の道
産・業・遺・産

～ はじめに ～

兵庫県北部の但馬地域は、古くより全国有数の鉱山エリアとして発展し、様々な伝統や文化が地域固有の歴史として育まれてきました。本誌で紹介する養父市、朝来市にまたがる明延・神子畑・生野の三鉱山のエリアは、日本の歴史に深く関わりながら発展し、特に明治以降は西洋の鉱山技術を取り入れた近代化鉱山の第一号として日本の近代化を牽引してきました。

これらの3つの鉱山のエリアは平成16年に「鉱石の道」と命名され、平成19年には経済産業省の近代化産業遺産群に、さらに平成29年に中瀬鉱山が加わって日本遺産に認定されました。この「鉱石の道」エリアは、今も残る鉱山遺産とともに鉱山町の景観、歴史、生活、文化など様々な地域の姿を通じて、日本の鉱山史を丸ごと体感できる貴重なエリアです。

この「鉱石の道」ガイドブックが、私たちの住む但馬地域の誇りや可能性をあらためて発見し、発信するきっかけとなることを願っています。

目次 INDEX

マンガでみる「鉱石の道」 …… 1
第一章　但馬はかねほる里だった。 …… 3
第二章　日本近代化鉱山の原点 鉱石の道をたどる。 …… 7
第三章　明延鉱山 …… 11
　　明延散策マップ …… 13
第四章　神子畑鉱山 …… 15
　　神子畑散策マップ …… 17
第五章　生野鉱山 …… 19
　　生野散策マップ …… 21
第六章　鉱山の暮らしと文化・鉱石の道ゆかりの人物 …… 23
第七章　これからの鉱石の道 …… 26
アクセスマップ・関連イベント情報・問い合わせ一覧 …… 27

【参考・引用文献】
『会社の概要(明延鉱業株式会社)』『明延鉱山 かくありき そのヤマと人々（明延鉱業株式会社・明延鉱山労働組合)』『大屋町史民俗編(大屋町)』『写真と傳承でつづる ふるさと あけのべ(あけのべ・ふるさとづくりの会)』『一円電車と明延鉱山(岡本憲之／神戸新聞総合出版センター)』『明延鉱山探検坑道パンフレット(「鉱石の道」明延実行委員会)』『生野史(生野町役場)』『生野銀山町物語(生野町中央公民館)』『明治以降の生野鉱山史(生野町中央公民館)』『生野銀山(生野町中央公民館)』『いくの(生野町中央公民館)』『生野銀山まるごと情報誌 いぶし銀(口銀谷の町並みをつくる会)』『史跡生野銀山パンフレット(株式会社シルバー生野)』『生野鉱山 近代化産業遺産パンフレット(朝来市教育委員会)』『ごっついで～ 奥銀谷お宝マップ(奥銀谷地域自治協議会)』『但馬の情報誌 T2(公益財団法人但馬ふるさとづくり協会)』
その他、養父市・朝来市発行パンフレット

（左）江戸時代の露天掘り跡（史跡生野銀山・慶寿ひ）／（右）生野銀山周辺の間歩（坑道）などを記した江戸時代の古地図

第一章

EPISODE

但馬はかねほる里だった。

日本を代表する鉱山王国

大同2年（807）に開坑したといわれ、1200年の歴史を誇る日本有数の銀山である生野鉱山。産出した銅が奈良の大仏鋳造（752年建立）にも使われたとされる明延鉱山など、兵庫県北部の但馬地域には、日本の歴史上において重要な鉱山が点在しています。

これらの鉱山は時の権力者の財力となり、江戸時代には佐渡金山（新潟県）、石見銀山（島根県）とともに幕府の財政を支えました。江戸幕府は生野、佐渡、石見に奉行所を置いて、鉱山開発に力を入れました。

『桜もちるに嘆き…、ここに但馬の国かねほる里の辺に…』。これは江戸時代の浮世草子作者・井原西鶴の作品である『好色一代男』の冒頭の一節です。「かねほる里」とは生野銀山のことであり、主人公の夢介は生野の富豪として描かれています。

また、当時、金（小判）は主に東日本で使用され、銀（丁銀）は西日本で使われていました。これは東の佐渡金山と西の生野、石見銀山の影響でした。江戸時代前半、日本で産出された銀は世界の3分の1を占めたといわれています。

天下人の宝物 但馬の金と銀

生野で最高位の坑道に、生野奉行所から「御所務山」の名称が与えられ、これを祝して「御見石」の山車が引き回されるようになった。

■但馬守護・山名氏による支配

生野に伝わる『銀山旧記』によると、天文11年（1542）に銀鉱脈を発見したことを契機に、但馬守護・山名祐豊が、当時の最新技術を用いて本格的に採掘を始めたと記されています。

それに先立つ天文2年には、石見銀山に銀を取り出す「灰吹法」が伝えられています。

弘治2年（1556）には竹田城主・太田垣朝延が、山名祐豊から生野銀山の支配権を奪い取り、その後も、山名氏と太田垣氏は銀山の支配権を巡って度々対立しました。

■織田信長

織田信長は永禄11年（1568）、京都で将軍に足利義昭を擁立。さらに翌年には、木下（豊臣）秀吉に

但馬の主要な金属鉱山マップ（昭和時代）

兵庫県北部・但馬地域にはこの他にも137以上の鉱山が確認されています。

主要産出鉱物

●自然金 ●自然銀 ●自然銅 ●自然砒(ひ)
▲輝銀鉱 ▲輝安鉱 ▲濃紅銀鉱 ▲黄銅鉱 ▲方鉛鉱
■閃亜鉛鉱 ■閃マンガン鉱
◆錫石 ◆滑石 ◆方解石 ◆中沸石

写真提供:吉田利栄

天空の城、竹田城跡。戦国時代は竹田城主が生野銀山を管轄した。

命じて生野銀山を制圧し、直接支配しました。信長が安土城を築くのは、その7年後の天正4年のことです。天下取りを目指す信長にとって、安土城を築くよりも戦略的に重要な施設が生野銀山だったのです。

■豊臣秀吉

慶長3年（1598）、豊臣秀吉が全国の金山や銀山から納めさせた運上（営業税）の記録があります。銀山では但馬国が6万2千匁で、全国第1位、全国の83％を占めています。石見国は9千匁で、但馬国に次いで第2位です。

また金山では、越後国が全国第1位、佐渡国が第2位、但馬国は第6位です。主に銀は生野銀山、金は中瀬金山（養父市）です。但馬の鉱山は、まさに豊臣秀吉の御金蔵だったのです。

■徳川家康

慶長5年（1600）、関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康は、但馬の鉱山を直轄地としました。生野奉行の間宮直元に命じて、生野の銀山開発に力を入れました。白口の樫木・若林などを開発し、奥銀谷が一気に繁栄しました。慶長14年、徳川家康は生野奉行に命じて、佐渡金山の開発のために、鉱山担当の家臣3名と中瀬金山の鉱山技師3名を1年間、佐渡に派遣しました。

また、元和3年（1617）には、佐渡金山の鉱山技師、味方但馬が中瀬金山に来ました。佐渡と但馬の交流によって鉱山が栄えました。

■日本は金銀の国

永禄11年（1568）、ポルトガル人のドラードがインドで作った「日本図」があります。この日本地図の石見国には「銀鉱山群王国」、但馬国には「銀金山群王国」と書いてあります。ヨーロッパから見ると、日本の国は金銀にあふれた黄金の国でした。

近代化日本の幕開け

明治政府は近代化を先導する模範鉱山として、生野鉱山を日本初の官営鉱山としました。フランスから24人の鉱山技師（御雇外国人）を迎えて、西洋の鉱山技術を導入した大規模な近代化鉱山を建設しました。

明治5年（1872）には神子畑、明延、中瀬の鉱山も官営となりました。そして、明治29年には三菱の経営に移りました。

COLUMN

養父の特産 朝倉山椒

豊臣秀吉から任命された生野鉱山の奉行・伊藤石見守は、生野にある昔の侍町の跡に山椒を植えました。その後、山椒の木は大きくなりました。慶長16年(1611)、生野奉行の間宮直元は、この山椒の木から実をとって、徳川家康に献上しました。これが江戸幕府に「朝倉山椒」を献上した最も古い事例です。

江戸時代、朝倉山椒は天下の名産品となりました。朝倉山椒は、但馬国養父郡朝倉村で栽培が始まりました。伊藤と間宮の2人の生野奉行も山椒が好物であったのでしょう。現在も但馬の特産品として栽培されています。

【鉱石の道のもう一つの鉱山】
中瀬鉱山
日本一の自然金とアンチモン

養父市中瀬の中瀬金山は、天正元年（1573）、八木川で砂金が発見されて始まりました。その後、豊臣秀吉が所有し、但馬八木城主の別所氏が代官となりました。

江戸時代には、生野奉行所の直轄鉱山となり、徳川家康は中瀬の開発に力を入れます。生野奉行に命じて、中瀬金山に陣屋を建設し、近畿地方でも最大の金山町として開発しました。

明治5年（1872）に明治政府の所有となり、明治29年には生野・神子畑・明延とともに、三菱の経営となり、大正10年（1921）まで続きました。

その後、昭和10年（1935）には日本精鉱株式会社が経営を開始。日本一大きな「自然金」が出る鉱山として有名になりましたが、昭和44年に採掘を終了しました。

中瀬鉱山は、昭和の34年間で約8トンの金を産出しました。約400年間で83トンの金を産出した佐渡金山の10%にあたります。

昭和に入ると、中瀬鉱山はアンチモンを産出し、優秀な製錬技術を開発しました。日本精鉱株式会社はその製錬技術を活かして、現在も輸入した材料から国内生産の80%のアンチモン製品を製造しています。中瀬鉱山の技術は、今も日本の産業を支えています。

（※アンチモン：アンチモニーとも呼ばれ、硬くてもろい銀白色の元素。古代には顔料として使用されていました。現在は触媒や顔料、減摩材、ガラス清澄剤などの材料として用いられています。）

昭和初期の中瀬鉱山

現在の中瀬鉱山

交流拠点施設「中瀬金山関所」

HISTORY TIMELINE

奈良
- 和銅6年(713)　生野は播磨の国「埴岡の里」に属し、応神天皇により生野と名付けられる。(播磨風土記)
- 天平17年(745)～天平勝宝4年(752)　東大寺の大仏の鋳造にも明延の銅が献上されたと伝わる。

和銅3年 藤原京から平城京に遷都

平安
- 大同2年(807)　生野から銀が発見されたと伝わる。

室町
- 応永30年(1423)　但馬守護・山名時熙が生野城(山城)を築く。
- 天文11年(1542)　但馬守護・山名祐豊が生野鉱山で本格的に銀の採掘を始める。(銀山旧記)

戦国
- 永禄12年(1569)　織田信長の命を受け、木下秀吉(豊臣秀吉)が山名祐豊を攻め、生野銀山は信長の支配となる。
- 元亀元年(1570)　信長が生野に代官所を置き、銀山を支配を開始する。
- 天正10年(1582)　「本能寺の変」。生野銀山は豊臣秀吉の支配となる。
- 慶長5年(1600)　「関ヶ原の戦い」。生野銀山は徳川幕府の支配となる。

江戸
- 享保元年(1716)　生野奉行所が代官所に変わり、以降28代の代官が着任する。
- 天保12年(1841)　代官所内に学問所(尊性堂、後の麗澤館)が開かれる。
- 文久3年(1863)　生野義挙(生野の変)

明治
- 明治元年(1868)　生野鉱山が明治政府の官営鉱山となる。
- 仏人技師コワニェら(24人)により鉱山近代化を図る。
- 5年(1872)　神子畑、明延、中瀬の鉱山が官営となる。
- 9年(1876)　生野鉱山で新工場落成式(工部卿・伊藤博文が出席)
- 生野～姫路市飾磨港間を結ぶ生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)開通

明治9年 東海道線 大阪ー京都間 開通開業

- 11年(1878)　神子畑で銀鉱脈を発見
- 18年(1885)　生野～神子畑間の鉱石運搬専用道路開通(神子畑・羽渕鋳鉄橋設置)
- 22年(1889)　佐渡鉱山・生野鉱山、大蔵省から宮内省御料局へ所管替え。

明治
- 明治29年(1896)　宮内省による官営を廃止
- 佐渡鉱山・生野鉱山を三菱合資会社に払い下げ。

大正
- 42年(1909)　明延で錫鉱脈を発見、日本一の錫鉱山へ。
- 大正6年(1917)　神子畑鉱山を閉山。明延鉱山の鉱石を生野に送る中継地となる。
- 8年(1919)　明延鉱山の選鉱場を神子畑に建設後に東洋一の選鉱場といわれる。
- 11年(1922)　生野の銅製錬廃止により、明延鉱山の銅を飾磨港経由で直島製錬所(香川県)に輸送

大正3年 第一次世界大戦 勃発

昭和
- 昭和4年(1929)　明延～神子畑間(約6km)をつなぐ「明神電車線」が開通
- 25年(1950)　明延鉱山で鉛・亜鉛を産出、神子畑選鉱場で選鉱処理
- 27年(1952)　明神電車で乗車賃1円の客車運行。「一円電車」を開始
- トラック輸送への転換により神子畑～新井間の専用軌道廃止
- 48年(1973)　鉱量枯渇等により生野鉱山の採鉱部門廃止(明延の錫製錬は継続)
- 49年(1974)　史跡生野銀山(シルバー生野)オープン
- 60年(1985)　「一円電車」の客車運行廃止
- 62年(1987)　明延鉱山廃止、神子畑選鉱場閉鎖。明神電車廃止

昭和39年 東京オリンピック 開催

平成
- 平成元年(1989)　明延鉱山探検坑道(旧世谷通洞抗)オープン
- 16年(2004)　「鉱石の道」産業遺産活用調査報告で3鉱山エリアを「鉱石の道」と命名
- 17年(2005)　「鉱石の道」観光産業活性化事業計画報告書を策定
- 19年(2007)　経済産業省の近代化産業遺産群に生野・明延・神子畑の鉱山関連遺産(通称：鉱石の道)が認定される。
- 産業遺産を活用した地域活性化を推進する。「鉱石の道推進協議会」設立
- 29年(2017)　「播但貫く、銀の馬車道　鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～」が日本遺産に認定

平成7年 阪神・淡路 大震災 発生

日本の主な金属鉱山

石見銀山は平成19年（2007）に世界遺産になり、佐渡金山は世界遺産へ登録の準備中です。また、日本には世界的にも貴重な鉱山遺産として別子銅山、吉岡銅山、生野銀山（神子畑・明延）などがあります。

日本を代表する金・銀・銅などを産出した鉱山は、多くの人間が全国的に交流し、鉱山町が栄えました。今再び、鉱山遺産を生かした観光交流が重要となっています。

■佐渡金山（新潟県）

佐渡金山は、相川金銀山・鶴子銀山・西三川砂金山・新穂銀山などの鉱山を示す全体の名称です。

江戸時代、江戸幕府の役人であった大久保長安が石見銀山と佐渡金山の奉行となり、開発に力を入れました。

「佐渡の金、生野の銀」といわれたように、佐渡金山と生野銀山は日本を二分する大鉱山です。明治政府や三菱によって近代鉱山へと整備されました。現在、「ゴールデン佐渡」では見学坑道や鉱山資料館を一般公開しています。今も大立竪坑、鉱山車両などが保存されています。

■石見銀山（島根県）

平成19年に世界遺産に登録された石見銀山。天文2年（1533）、博多の神谷寿禎が、石見銀山に初めて「灰吹法」という製錬技術を導入しました。当時の最新技術である灰吹法は、石見から生野や佐渡に伝えられ、全国に広まりました。

大森には代官所跡や武家屋敷、郷宿などが残り、国の重要伝統的建造物群保存地区になっています。

また、近代化遺産である清水谷製錬所跡や龍源寺間歩が公開されています。ガイダンス施設として石見銀山世界遺産センターがあります。

■吉岡銅山（岡山県）

吉岡銅山は、「吹屋銅山」とも呼ばれています。江戸時代、鉱山の捨石からベンガラを作る技術が発見されました。吹屋は、銅山とベンガラの町として栄えました。国の重要伝統的建造物群保存地区となり、大規模な日本建築があります。

明治6年（1873）、三菱が鉱山経営を始め、吉岡銅山は三菱鉱山経営の発祥地とされています。今は銅を採掘した笹畝坑道が公開されています。山神社には三菱創始者・岩崎弥太郎が寄進した玉垣があります。

■別子銅山（愛媛県）

別子銅山は日本最大の銅山で、住友による鉱山経営の本拠地です。明治初期、別子銅山の総支配人である広瀬宰平は、生野鉱山で御雇外国人コワニエに、黒色火薬を利用した近代的採鉱法を教わりました。

鉱山本部の跡地は「マイントピア別子」となり、鉱山資料館、レストラン、鉱山鉄道、観光坑道などがあります。また付近には、別子銅山記念館・大山祇神社もあります。

佐渡金山(相川北沢選鉱場跡)

石見銀山（清水谷製錬所跡）

吉岡銅山（吹屋の町並み）

直島製錬所

別子銅山(第四通洞)

第二章

EPISODE

日本の近代化鉱山の原点

鉱石の道をたどる。

明延から神子畑まで鉱石を運んだ明神電車(昭和61年頃)

近代化日本の鉱山開発は”ここから始まった

明治維新後、日本初の官営鉱山となった生野鉱山、神子畑鉱山（朝来市）、明延鉱山（養父市）は、西洋の進んだ鉱山技術を導入するためフランス人技師を招聘し、近代化の模範鉱山として再開発されました。

特に生野鉱山は、日本初の最新技術が数多く導入されました。機械式製錬技術や本格的な火薬による採鉱方法である発破法の他、鉱業用送水路やダムの建設（水力の動力利用・蒸気機関）、トロッコ軌道（鉱山鉄道）の敷設、日本最初の鉱山学校の設立など、近代化日本の鉱山開発はまさに〝ここ〟から始まったのです。

明治4年（1871）には、外国貿易専用の銀貨である一円銀貨が作られ、銀貨と金貨が日本の基本通貨となり、この地域が銀や錫の生産地として日本経済を支えました。

こうした近代鉱山開発の歴史とともに、三鉱山を結ぶ「3つの道」が作られました。

第1の道が、姫路の飾磨港から生野へ石炭などの鉱山用資材を運んだ「生野鉱山寮馬車道」（現在の銀の馬車道）です。

幅が5・4メートルの広い道で、明治9年に完成し、明治28年に播但鉄道（現在のJR播但線）が開通するまで使われました。

第2の道は神子畑から生野へ「銀鉱石」を運んだ鋳鉄橋のある馬車の鉄道です。神子畑鋳鉄橋（国指定重要文化財）や羽渕鋳鉄橋（兵庫県指定文化財）は、明治政府が明治18年に完成させたものです。

鋳鉄橋という当時の近代的な技術が、国家プロジェクトとして但馬地域の山間部に導入されたことは特筆すべき事柄です。この道は明治42年に軽便鉄道となり、大正13年（1924）にはJR播但線の新井駅とつながりました。

神子畑選鉱場(平成15年頃)

COLUMN

生野と姫路飾磨港を結ぶ「銀の馬車道」

明治9年、生野鉱山と姫路・飾磨港の間、約49kmを結ぶ「生野鉱山寮馬車道」が作られました。フランス人技師・シスレイの指導によって作られた馬車専用道路で、日本初の高速産業道路ともいわれています。完成から約130年が経った今では、道の大部分が国道や県道に変わっていますが、所々に往事の面影を偲ぶ遺構が残っています。現在は「銀の馬車道」と名付けられ、中播磨地域交流のシンボルとなっています。

生野鉱山本部前の馬車道

「鉱石の道」ルートマップ（昭和45年頃）

明治時代の生野鉱山本部

明神第三隧道貫通記念写真（昭和４年）

第3の道は明延から神子畑に「錫鉱石」を運んだ明神電車（一円電車）です。明治42年に明延鉱山で錫が発見され、明延から神子畑へと、牛を使って山道を運びました。その後、大正元年（1912）に完成した架空索道（ロープウェイ）での運搬を経て、昭和4年（1929）のトンネル完成により、明神電車が開通しました。

明延の鉱石は、神子畑選鉱場で錫・銅・亜鉛などの鉱物に分離されました。錫は生野鉱山、銅は香川県直島、亜鉛は秋田県秋田市の各製錬所に運ばれました。

三鉱山を結ぶ「鉱石の道」

「鉱石の道」とは、「鉱石の道」産業遺産活用調査報告書（平成16年3月）で命名された名称です。この道は、明延から神子畑へ、神子畑から生野へと、鉱石や人、文化が運ばれた道であり、日本近代化の歴史や今に残る鉱山遺産群をつなぐ道です。

同時にこれから当地を訪れる多くの人々が、近代化産業遺産や地域の人々とふれあう新たな「交流の道」でもあります。

さらに、近代国家の発展に大きな役割を担ったこれらの鉱山遺産を再評価するとともに、その技術や文化を継承し、地域の産業、生活、文化の活性化に生かそうとする活動そのものが「鉱石の道」です。

「近代化産業遺産」とは？

「近代化産業遺産」とは、近代日本の産業形成と発展において、重要な役割を果たした遺構のことです。その中でも、幕末・明治期からの近代化手法によって造られた建築物や構築物、工作物を指します。

経済産業省では、産業遺産を地域活性化に有効活用するために、「近代化産業遺産群」の認定を行いました。

「鉱石の道」は、「我が国鉱業近代化のモデルとなった生野鉱山などにおける鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、平成19年11月30日に認定されました。明延は明延鉱山探検坑道など3遺産、神子畑は神子畑選鉱場跡や神子畑鋳鉄橋など5遺産、生野は生野鉱山関連施設など10遺産です。

こうした日本の近代化に貢献した近代化産業遺産は、独特の機能美とともに、近代日本を築いてきた人々の物語を今に伝えてくれる地域の大切な遺産なのです。

近代化産業遺産
平成19年度　経済産業省

経済産業省「近代化産業遺産」の取り組み

経済産業省は、産業遺産を地域活性化のために有効活用する観点から、平成19年4月に日本各地に現存している産業遺産を公募し、その実態と保全・活用の取組み状況を調査し、産業遺産の価値の理解を深めるための「近代化産業遺産ストーリー」の作成を行いました。

平成19年度および平成20年度において、地域史・産業史の観点から、33のストーリーを取りまとめた「近代化産業遺産群 33」と「近代化産業遺産群 続33」を公表しました。

近代化産業遺産群を構成する個々の認定遺産に対して認定証とプレートを贈呈し、広報活動、保存方法や活用方法の具体化などに取り組んでいます。

※詳細は経済産業省ホームページを閲覧ください。

■主な「近代化産業遺産」認定事例

＊夕張炭田関連遺産【北海道夕張市】
＊足尾銅山関連遺産【栃木県日光市】
＊群馬県の製糸関連遺産(旧富岡製糸場他)【群馬県富岡市他】
＊旧呉海軍工廠(きゅうくれかいぐんこうしょう)関連遺産【広島県呉市】
＊八幡製鉄所関連遺産【福岡県北九州市他】
＊端島(はしま)(通称:軍艦島(ぐんかんじま))【長崎県長崎市】

近代化産業遺産 認定リスト ～ 生野・明延・神子畑鉱山関連遺産（通称：鉱石の道） ～

名　称	所在地	内部公開	問い合わせ先		備　考
明延鉱山探検坑道 (旧世谷通洞坑)	養父市 大屋町明延	公開 (有料)	あけのべ自然学校	TEL.079-668-0258 FAX.079-668-0099	要予約 観覧料 大　人：1,200円 小中生：600円
明神電車 県指定文化財 (蓄電池機関車・一円電車)	養父市 大屋町明延	公開	養父市大屋地域局	TEL.079-669-0120 FAX.079-669-1682	月1回乗車体験会を実施
明盛共同浴場「第一浴場」建屋	養父市 大屋町明延	公開 (不定期)	あけのべ自然学校	TEL.079-668-0258	
神子畑選鉱場跡	朝来市佐嚢(さのう)	内部非公開 (外観は見学可)	エコマネジメント(株) 明延事業所	TEL.079-668-0111 FAX.079-668-0110	外部より見学可能 ※一円電車展示(見学可能)
神子畑選鉱場跡(シックナー)	朝来市佐嚢(さのう)	内部非公開 (外観は見学可)	朝来市朝来支所 地域振興課	TEL.079-677-2111 FAX.079-677-1513	外部より見学可能
旧神子畑鉱山事務舎・ ムーセ旧居 県指定文化財	朝来市佐嚢(さのう)	公開 (土日祝)	朝来市文化財課	TEL.079-670-7330 FAX.079-670-7333	入館無料 開館時間：10時～17時 土日祝のみ開館(1～2月は休館)
神子畑鋳鉄橋 国重要文化財	朝来市佐嚢(さのう)	公開	朝来市文化財課	TEL.079-670-7330 FAX.079-670-7333	国道429号沿い 駐車スペースあり
羽渕鋳鉄橋 県指定文化財	朝来市羽渕	公開	朝来市文化財課	TEL.079-670-7330 FAX.079-670-7333	国道312号沿い 駐車スペースあり
生野鉱山関連施設群 (太盛地区)	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	非公開	三菱マテリアル(株) 生野事業所	TEL.079-679-3111 FAX.079-679-4047	
生野鉱山関連施設群 (金香瀬地区)	朝来市 生野町小野(この)	公開 (有料)	(株) シルバー生野	TEL.079-679-2010 FAX.079-679-2755	観覧料 大　人：900円 中高生：600円 小学生：400円 ※時間、休館日は季節により変動
鷹ノ巣ダム及び送水路	朝来市生野町	非公開	三菱マテリアル(株) 生野事業所	TEL.079-679-3111 FAX.079-679-4047	
トロッコ道跡(口銀谷地区)	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	公開	朝来市生野支所 地域振興課	TEL.079-679-5802 FAX.079-679-4638	公園整備しており 自由に見学可能
トロッコ道跡(奥銀谷地区)	朝来市生野町 新町、小野(この)	非公開 (外観は見学可)	三菱マテリアル(株) 生野事業所	TEL.079-679-3111 FAX.079-679-4047	
生野鉱山官舎・社宅群 市指定文化財	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	公開	旧生野鉱山職員宿舎 (甲社宅運営委員会)	TEL.079-670-5005 FAX.079-670-5005	入館無料 開館時間：9時～17時 月曜休館(祝日の場合は翌日)
生野鉱山甲5・6号社宅	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	非公開	朝来市生野支所 地域振興課	TEL.079-679-5802 FAX.079-679-4638	
生野鉱山、寺の上社宅群	朝来市生野町 口銀谷(くちがなや)	希望に 応じて公開	朝来市生野支所 地域振興課	TEL.079-679-5802 FAX.079-679-4638	
鉱山町の町並み	朝来市生野町	—	朝来市生野支所 地域振興課	TEL.079-679-5802 FAX.079-679-4638	
生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)	朝来市 生野町～姫路市	—	銀の馬車道 ネットワーク協議会	TEL.079-281-9059 FAX.079-222-8573	事務局： 兵庫県中播磨県民センター内

鉱石から金属製品ができるまで

僕たちがみんなの元に届けられるまでの流れを紹介するよ！

熱水鉱脈のでき方

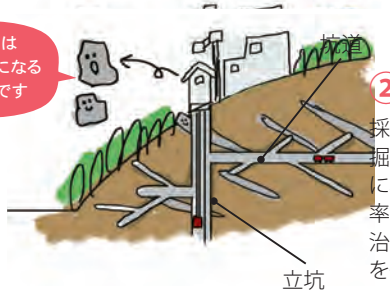
岩石のひびや断層などの割れ目に沿って、鉱物を含んだ熱水(鉱液)が入り込んで、鉱脈が形成される。

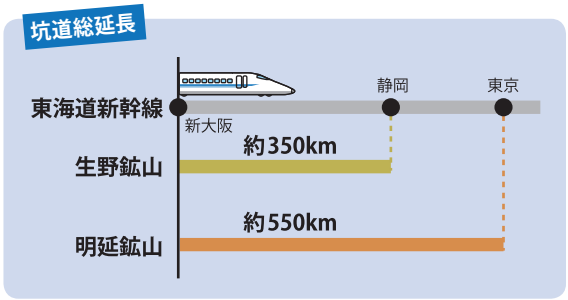
①探鉱

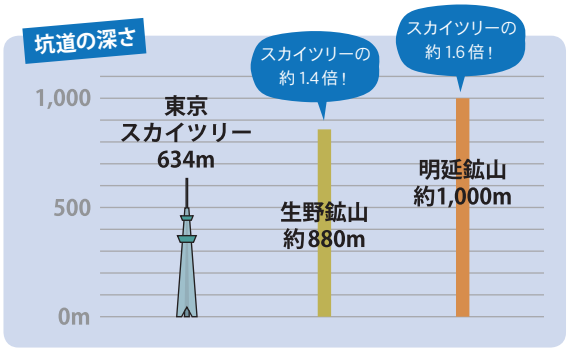
鉱物が特に集まった場所である「鉱床」を探すこと。古来は鉱脈の先端が地表に露出した露頭を探した。現代は電気探査やボーリング調査などを行う。

②採鉱

採鉱とは鉱脈から鉱石を掘り出すこと。水平に、垂直に、斜めに坑道を作って、効率よく鉱石を掘り出す。明治になり、手掘りから火薬を使った採鉱に変わった。

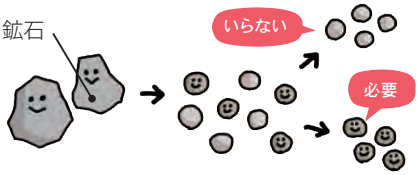






③選鉱

採鉱した鉱石を選別。比重の違いや浮力を利用して不用な鉱物を分離させ、銅・亜鉛・錫などの種類に分ける。



基本的な工程

1、鉱石を粉砕する
2、粒度の分級をする
3、有用鉱物を抽出する
4、脱水・乾燥する

選鉱された鉱石は鉱物の種類によって、それぞれの製錬所に運ばれた

- 銅 → 【直島製錬所】香川県
- 亜鉛 → 【秋田製錬所】秋田県
- 錫 → 【生野製錬所】兵庫県

④製錬

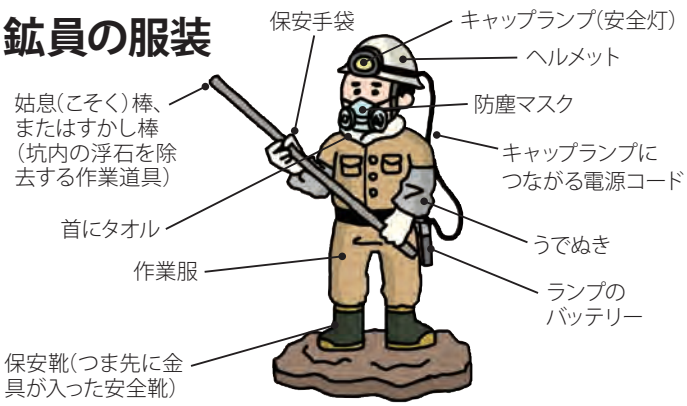
選鉱された鉱石は製錬によって、金属が取り出される。さらに金属の純度を高めるために、「精錬」の工程が行われる。

10円玉、電子部品やケーブルなど。奈良の大仏に銅が大量に使われている。

乾電池、亜鉛メッキなどに使われている。

はんだ、食器などに使われている。

鉱員の服装



鉱山用語集

開坑 鉱床に向かって、坑道を切り開くこと。

露頭 岩石や地層が地表に露出しているところ。

間歩(まぶ) 明治時代以前の小さな坑道

鉱床 銅などの鉱物が特に集まったところ。

鉱脈
岩石の割れ目を有用鉱物が満たしてできた板状の鉱床

灰吹法(はいふきほう)
石見銀山から生野に伝わった製錬方法。金や銀を鉱石などから鉛に溶け込ませ、さらにそこから金や銀を抽出する方法

狸(たぬき)掘り
鎚(つち)とたがねで掘り進む江戸時代の採掘法。狸の巣穴のように狭く放射状に広がっている。

ズリ
採掘された鉱石のうち、資源として使えず廃棄する岩石などの部分

スライム
鉱石、岩石などの砂より細かい泥状の物体

グランビー鉱車
鉱石を運搬する車両。鉱車側面の転輪装置(車輪部分)がレールを昇って自動的に荷台部分を傾け、走行しながら鉱石を降ろせる。

ガンチャージャー
鉱山で使用する専用爆薬「アンホ」を、削岩機で開けた穴に圧縮機で装填する装置

ケージ
立坑(縦の坑道)のエレベーター。鉱員、鉱石、ズリ、資材、鉱山車両などの運搬に使用された。

トロリー
ロープウェイのような架線式の滑車

シュリンケージ法
掘った鉱石を足場にして、地底から上に向かって採掘する方法。効率よく経済的かつ安全性が高い採掘方法

CONTENTS

第三章 明延鉱山 あけのべ

一般公開されている明延鉱山探検坑道(旧世谷通洞坑)

日本一の錫鉱山

奈良・東大寺の大仏鋳造の際に、明延産出の銅が使用されたと伝えられる歴史の古い鉱山です。

豊臣秀吉が支配し、江戸時代には江戸幕府の下で生野奉行所の所管になりました。

国内有数の銅山、銀山とし盛衰を繰り返し、明治新政府によって、明治5年（1872）に官営化。その後、明治29年に三菱に払い下げられました。

明治42年に錫鉱脈が発見されると、「日本一の錫の鉱山」として栄え、海外の最新技術を導入して近代化が促進されました。錫の産出量は全国の90%を誇ったといいます。

その他にも銅、鉛、亜鉛などの多鉱種を産出し、全国から「やま男」たちが集いました。

最盛期とされる昭和30年頃には従業員は1500人、職員住宅に暮らす所帯数は1200以上、人口も4000人を越えていました。

明延は鉱山町として栄え、鉱山が経営するスーパーや総合病院の他に、映画館や遊技場などの娯楽施設もあり、現代のニュータウンに匹敵するような都市が出現しました。

明延鉱山は、やがて世界的な鉱物の価格競争に巻き込まれます。円高によって採算性が合わなくなる

COLUMN

一円電車の体験乗車会

昭和60年まで鉱山従業員や一般人の通勤電車として、明延～神子畑間を運行していた一円電車。一円電車が走る姿を復活させようと、全国から寄せられた募金で、平成22年10月に手づくり線路「明延一円電車線」が有志の手によって開設されました。地元ではこの線路を使って、4～11月までの月1回(第1日曜)、定期運行を続けています。150メートルの手作り線路をガタゴトと走る姿は当時を思い出させてくれます。（問）あけのべ自然学校 079-668-0258

かつての明延鉱山 大仙粗砕場

在りし日の一円電車(出合付近／昭和60年頃)

明延鉱山探検坑道の入り口

明延鉱山探検坑道のガイド案内

あけのべ憩いの家横の「鉱山の里」の石碑

中、昭和62年（1987）3月、有望な鉱脈を残したまま、閉山となりました。

坑道の総延長は約550キロにも及び、平面的な広がりは約5キロ平方メートル、深さ約1000メートルまで掘り下げられています。

鉱山周辺の岩石は、約2億5千年前に、泥、火山灰、溶岩などが固まったもので、6000万年前の地殻変動で地層に多くの割れ目ができました。

その割れ目に沿って、錫、銅、亜鉛、タングステンなどを含んだ鉱液が地下深部より上昇し、鉱脈を形成しました。これを「熱水鉱床」と呼んでいます。

一円電車

昭和4年（1929）、明延鉱山と神子畑選鉱場までの約6キロを運行する「明神電車」が開通し、明延で採鉱された鉱石を運搬しました。昭和20年からは、鉱山従業員の通勤電車としても利用されました。

昭和24年に従業員運搬用に客車を付けるようになり、一般の乗客も運ぶようになりました。客車には「くろがね」「白金」「赤金」などの名前が付けられています。

昭和27年、1日の乗降数を数えやすくするために乗車料金が1円となり、「一円電車」の愛称で親しまれました。

平成19年（2007）公表の近代化産業遺産認定遺産リスト（経済産業省）において、「明神電車と蓄電池機関車」が選定されています。

明延鉱山探検坑道

明延鉱山探検坑道は、鉱山閉山後、旧世谷通洞坑の一部を明延鉱業（株）が青少年の鉱山学習施設として整備しました。近代鉱山の姿を残す貴重な産業遺産として、現在は養父市が管理運営を行っています。

探検坑道の総延長は650メートル。坑内には閉山まで使用していた大寿立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機、1トン鉱車などが、当時と同じ姿で展示、公開されています。

WALK MAP

明延 あけのべMAP

2 明延鉱山産出の銅で造られた梵鐘が残る両松寺。文禄5年（1596）の銘文が刻まれている。余韻が他の鐘とは違うそうだ。

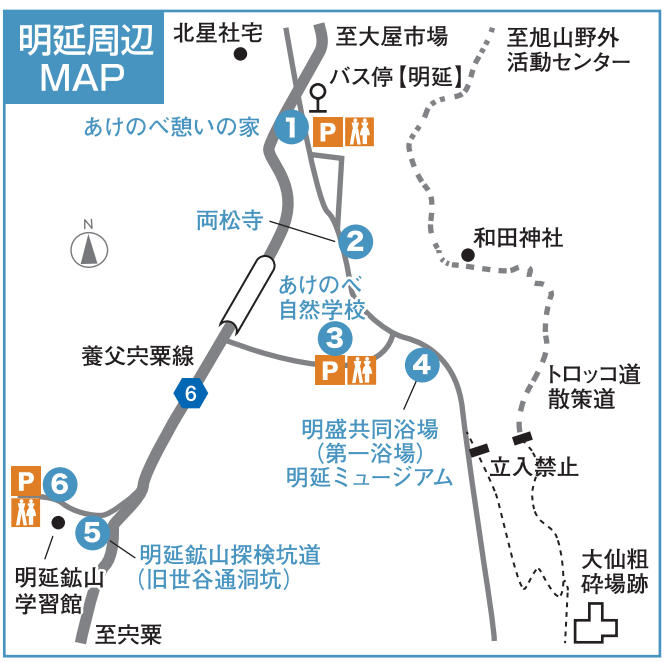
両松寺

明延鉱山から朝来市の神子畑選鉱場までの約6キロの区間を運行していた「明神電車」。昭和20年に鉱山従業員の通勤用として運行を開始した。あけのべ憩いの家の前には「白金号」が展示されている。

1 あけのべ憩いの家・一円電車「白金号」

土地を少しでも有効利用するため、せり出すように家が建てられている。

左官職人の心意気が伝わるタバコ屋さんの看板。龍の口からはかれた炎が文字に！！



探検坑道の見どころ

全坑道の総延長は約550km！東京～大阪間の東海道新幹線に匹敵する長さ

大寿立坑

明延鉱山には立坑(エレベーター)が7カ所あり、坑道見学ではこの「大寿立坑」だけが公開されている。昇降距離は約420mで、人員昇降の場合は分速150m、鉱車や資材は分速300mもの速さで運搬していた。2階建てで、上下段8人ずつ計16人が1度に乗ることができた。

坑内用ダンプトラック(左)
ロードホールダンプ(右)

約20mの巨大鉱脈跡

約50年以前の採掘跡で、探検坑道一番の見所。鉱脈の良鉱部が巨大な空洞となっている。

昭和10年代の削岩風景

明延鉱山で最も機械化が進んだのは、昭和20～30年代。この頃導入された削岩機は閉山時まで使用された。末期にはロードホールダンプなどの大型の鉱山車両が多数導入された。分解して坑道の中に運び、地下で組み立てられた。

酒蔵「明壽蔵(めいじゅぐら)」

坑道内は年間平均13℃前後と一定であることから、養父市産「有機蛇紋岩米」を使用した純米吟醸酒「仙櫻(せんさくら)」・純米酒「明延(あけのべ)」の熟成にも利用されている。

明延鉱山探検坑道 - DATA -

旧世谷通洞坑の一部を一般公開しています。探検坑道の総延長は650m。坑内には閉山まで使用していた大寿立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機、1トン鉱車など、当時と同じ姿で展示、公開されています。

◆兵庫県養父市大屋町明延1184

◆大人・高校生1,200円、小・中学生600円

※坑道見学は事前予約(3日前まで)が必要です。

※4月～11月(第1)までの毎週日曜日は予約不要の「日曜見学会」を開催しています。

(問)あけのべ自然学校 079-668-0258(平日受付)

当時のまま姿で…

当時のまま姿が保たれている探検坑道には、むき出しの地面や鉱車が走っていた線路、送風や圧縮空気を送る鉄パイプも残されている。

●近隣ガイド

道の駅 ようか但馬蔵

2012年11月に開通した北近畿豊岡道・八鹿氷ノ山ICに近い道の駅。蔵をイメージした外観と、地元の生産者から届く新鮮野菜が自慢！お食事処では名物「季節のおこわとおばんざい」を始め、「蛇紋岩米」や「八鹿豚」などの特産品を使った料理が楽しめます。すぐそばには「とがやま温泉 天女の湯」があり、疲れをゆったりと癒すことができます。

[所] 兵庫県養父市八鹿町高柳241-1
[時] 食事処11時～18時30分／土産処9～19時／野菜蔵9～19時
[休] 無休 [問] 079-662-3200

おおやアート村 BIG LABO

廃校となった高校の校舎を再利用。木彫、木工、書、絵画、陶芸、染織、さをり織などの手づくり体験が楽しめる木造校舎や、体育館を改装したギャラリーなどがあります。講師は地元の芸術家であり、のんびりした空間で、つくって、まなんで、たのしいアートの実験が楽しめます。

[所] 兵庫県養父市大屋町加保7
[時] 9～17時(入場は16時30分まで)
[料] ギャラリー入場料：大人300円、中学生以下150円
[休] 水曜(祝日の場合はその翌日)
[問] 079-669-2449

あゆ公園・おおや農村公園

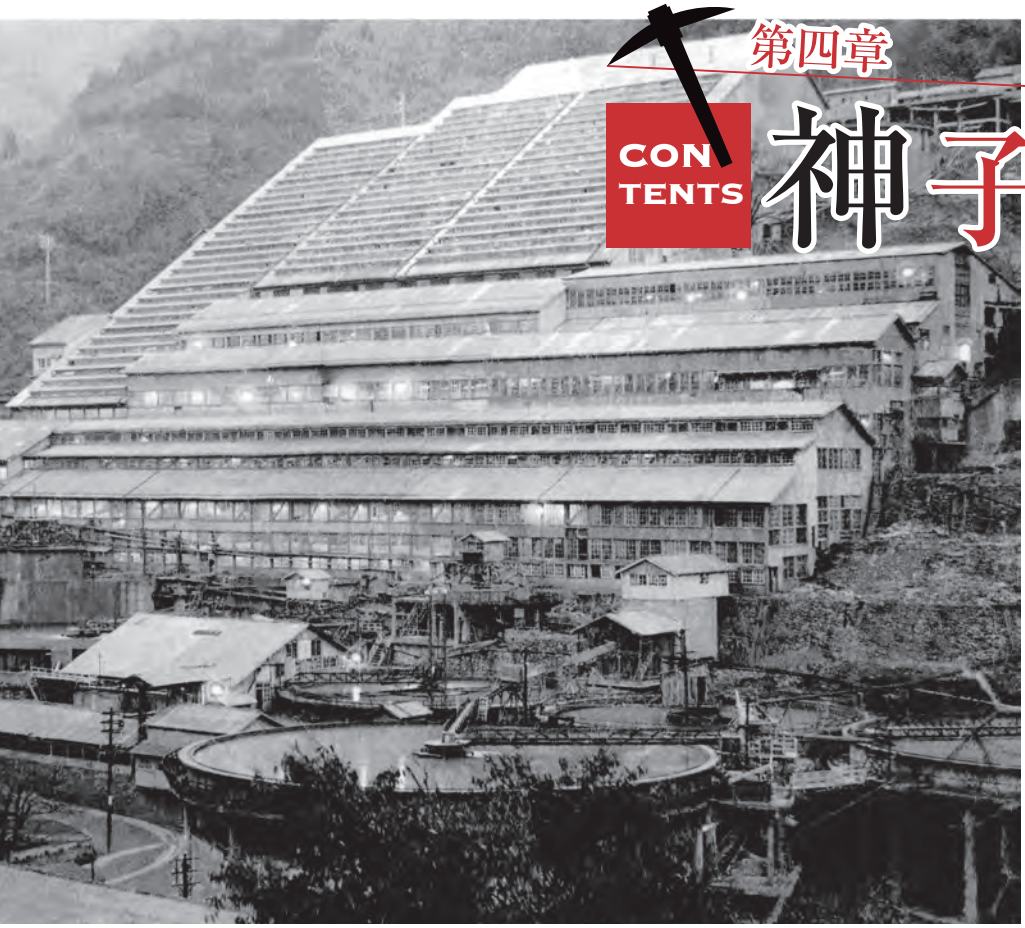
あゆ特定漁場の大屋川近くにある水と魚の体験公園。魚のつかみ取り、釣りなどができます。つかまえた魚や釣った魚は川のほとりの「川の家」でバーベキューや塩焼きにして食べることができます。また、すぐ近くにあるおおや農村公園はコテージ、体験工房などがあります。

[所] 兵庫県養父市大屋町加保582
[問] 079-669-1822

若杉高原(温泉)

若杉高原では夏でもウインタースポーツを楽しめる！スキー、スノーボードでジャンプするBAGJUMPとウォータージャンプ。その他サマーゲレンデ、キャンプ場、ドッグランなど、自然あふれる高原でめいっぱい楽しめます！場内に温泉もあります。

[所] 兵庫県養父市大屋町若杉99-2
◎若杉高原温泉
[時] ホームページにて確認
[休] 夏季は土日祝日のみ営業
※冬季の営業はHPで確認を。
[料]大人600円、小学生以下400円
[問] 079-669-1576



東洋一といわれた在りし日の神子畑選鉱場(昭和30年代頃)

第四章 神子畑鉱山

CONTENTS

みこばた

社宅が並ぶ神子畑地区(写真奥が選鉱場)

旧神子畑鉱山事務舎(ムーセ旧居)

神子畑鉱山の足跡

神子畑(みこばた)鉱山は平安時代に開山したと言い伝えられ、15世紀から採鉱が盛んになったとされています。

神子畑鉱山が最も繁栄したのは、明治10年代から30年のこと。明治の新政府が生野(いくの)鉱山周辺を調査した結果、明治11年(1878)に新鉱脈が発見され、生野鉱山の支山「加盛山(かせいやま)」として銀の採鉱が始まりました。

しかし、明治40年以降は鉱脈が減少し、新鉱脈を探すことになります。明治42年に明延(あけのべ)鉱山で錫(すず)鉱脈が発見されたことで、採鉱は明延に移りました。神子畑鉱山は明延鉱山の鉱石を選鉱する「神子畑選鉱場」に生まれ変わりました。

東洋一の選鉱場

明延鉱山で採鉱された鉱石の選鉱場となった神子畑は、大正8年(1919)に錫の選鉱場を竣工。昭和9年(1934)には硫銅選鉱場を開設し、昭和15年の拡張工事を経て、「東洋一」と言われる選鉱施設となりました。

選鉱場跡は、平成15年(2003)の調査で、内部の階層は延べ22階、幅110メートル、斜距離165メートル、高低差75メートルという規模が確認されています。木造部分と鉄骨部分があり、一部鉱石などを入れる容器としての鉄筋コンクリート造の部分もあります。

選鉱場跡に佇む通称「ムーセ旧居」は、元々生野鉱山に建設された

COLUMN

旧神子畑鉱山事務舎

明治5年(1872)、生野に5棟の異人館の町並みが出現しました。鉱山開発を行う御雇外国人のための工部省の官舎です。設計はフランス技師レスカス。その中のひとつがこの建物で、通称「ムーセ旧居」と呼ばれています。明治21年に、生野から神子畑に大蔵省の鉱山役所として移築されました。翌年には、所管替えによって宮内省御料局の鉱山役所になり、このため現在の鉱山事務舎には、瓦に菊の紋章が残っています。現存する宮内省御料局の鉱山事務舎は、佐渡相川と神子畑の2棟だけです。

その後、大正時代から昭和58年まで診療所などに利用されました。平成4年に県指定文化財となりました。平成16年に保存修理工事が進められ、鉱山事務舎の姿に戻りました。国が推進した日本鉱山の近代化を語る歴史的建造物であり、近畿地方に現存する最古級の異人館でもあります。

外国人宿舎のひとつです。神子畑鉱山の開発にともない、明治21年にこの地に移設され、鉱山事務舎を経て診療所などに利用されました。

昭和30年頃の神子畑地区には、約1300人もの人が生活していました。鉱山が経営するスーパーの購買会、映画を上映した協和会館や文化会館（卓球・柔道・ビリヤード）など、福利厚生施設も充実していました。

現在の神子畑選鉱場跡。周辺は公園整備され、間近で見学できる。

明治33年にはいち早く鉱山私立の神子畑小学校が創立（後に公立）。最盛期には230人を超える小学生が在籍していました。今も残る体育館は、昭和30年代の最新技術であるプレコン工法で建てられた貴重な遺構です。

昭和62年（1987）、明延鉱山の閉山にともない、神子畑選鉱場も操業を停止し、閉鎖しました。

その建物は長らく残っていましたが、平成16年に老朽化のため取り壊され、現在はコンクリートの基部やシックナー（液体中に混じる固体粒子を泥状物として分離する装置）の一部等が残っています。

日本最古の鋳鉄橋

国道429号沿いに架かる神子畑鋳鉄橋（ちゅうてつきょう）は、日本に現存する全鋳鉄製の橋としては最古のもので、国指定重要文化財（建造物）です。

明治11年（1878）、神子畑鉱山で良好な銀鉱脈が発見され、明治14年に本格開坑。その鉱石を生野鉱山の製錬所に運搬するために、輸送用道路が必要となりました。

神子畑から生野まで16・2キロ、幅員3・6メートルの馬車の鉄道（鉱山軌道）が整備され、神子畑川には多くの橋が架けられました。

この工事は明治16年4月から2年間に渡って行われ、総工事費4万円をかけた大工事でした（現在の約4億円）。この時、一番上流にかけられたのが神子畑鋳鉄橋です。

日本最古の全鋳鉄橋「神子畑鋳鉄橋」（国指定重要文化財）

鋳鉄橋とは鋳物で造られた橋のことで、全国的にも珍しい橋です。

設計から施工までを全て日本人が行ったもので、御雇（おやとい）外国人と呼ばれたフランス人技師の力を借りずに作りました。美しく組まれたらん干やたて格子の横材には、日本的な特徴が見られます。

木橋、石橋から煉瓦橋へ、さらに鋳鉄、錬鉄、鋼鉄の橋へと変わっていく日本橋梁史の流れの中で、神子畑鋳鉄橋はその過渡期的なものです。鋳鉄橋の歴史の中で最終段階の形式であり、歴史的価値の高い貴重な文化財です。

COLUMN

一円電車里帰り

「道の駅あさご」で展示されていた一円電車が、平成24年春、23年ぶりに朝来市佐嚢の「神子畑選鉱場跡」に里帰りしました。帰ってきた車両は、電気機関車、客車「わかば号」、貨車の3両。昭和62年の明延鉱山閉鎖に伴い、廃線となった一円電車。神子畑選鉱場跡に常設展示されることになりました。

一円電車は、神子畑の他に明延や生野でも展示されています。それらの電車は全て明延鉱山工作課の神子畑機械工場で製造されたものです。現在、神子畑で展示されている場所がまさに一円電車が生まれた工場の跡地です。電車の製造や修理も大切な鉱山技術のひとつでした。

神子畑選鉱場前の公園に展示されている一円電車。元々はこの場所で製造された。

WALK MAP

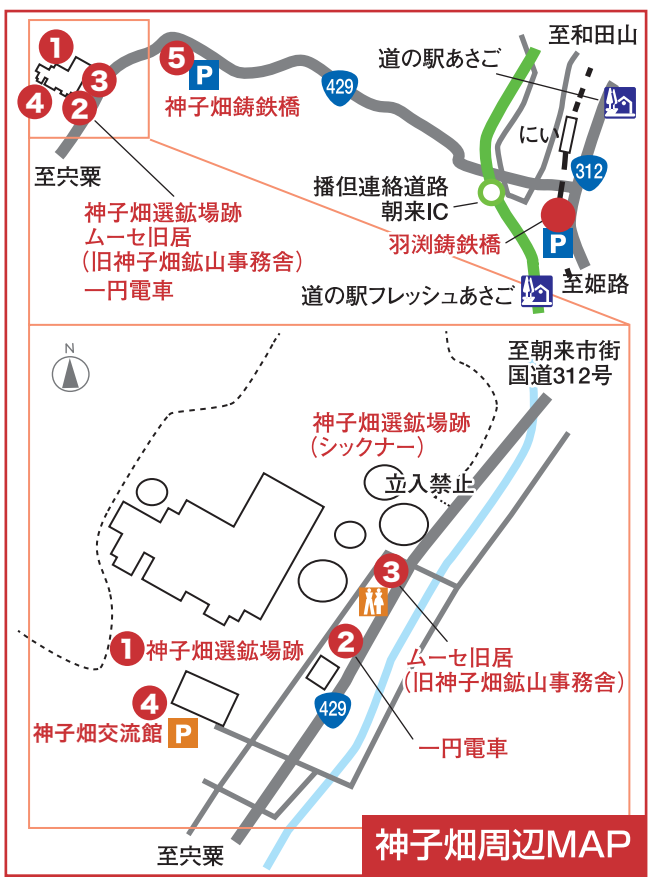
神子畑 みこばたMAP

旧神子畑鉱山事務舎(ムーセ旧居)

旧神子畑鉱山事務舎は明治21年に生野鉱山から移築された。通称「ムーセ旧居」として一般公開されている。

神子畑小学校跡の体育館は珍しいプレコン工法。

ムーセ旧居前にある「サルスベリ」は県指定郷土記念物。開花時期は8～9月頃。



神子畑周辺MAP

4 朝来市 鉱石の道 神子畑交流館

神子畑エリアをはじめ、鉱石の道の魅力を発信する観光交流拠点。鉱石の道ジオラマや神子畑地域の資料・展示に加え、特産物などのお土産を販売する。(令和2年4月開館予定)

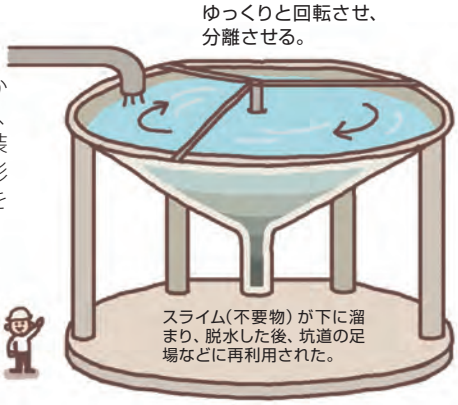
1 インクライン・シックナー

(右)液体中に混じる固体粒子を分離する装置「シックナー」は百尺(約30メートル)の他に、55尺(約16メートル)がある。(左)選鉱場の昇り降りを行った「インクライン(ケーブルカー)の軌道跡」。頂上の操作室から手信号で乗降が行われた。(※構内は立入禁止)

選鉱施設を大解剖

シックナーの仕組み

微細な個体が混じった液体から、水分を除いて濃縮(脱水)、固体物を取り出す非ろ過分離装置。シックナーと呼ばれる円形の水槽で、鉱石と水分・薬品を分離して精鉱を回収しました。

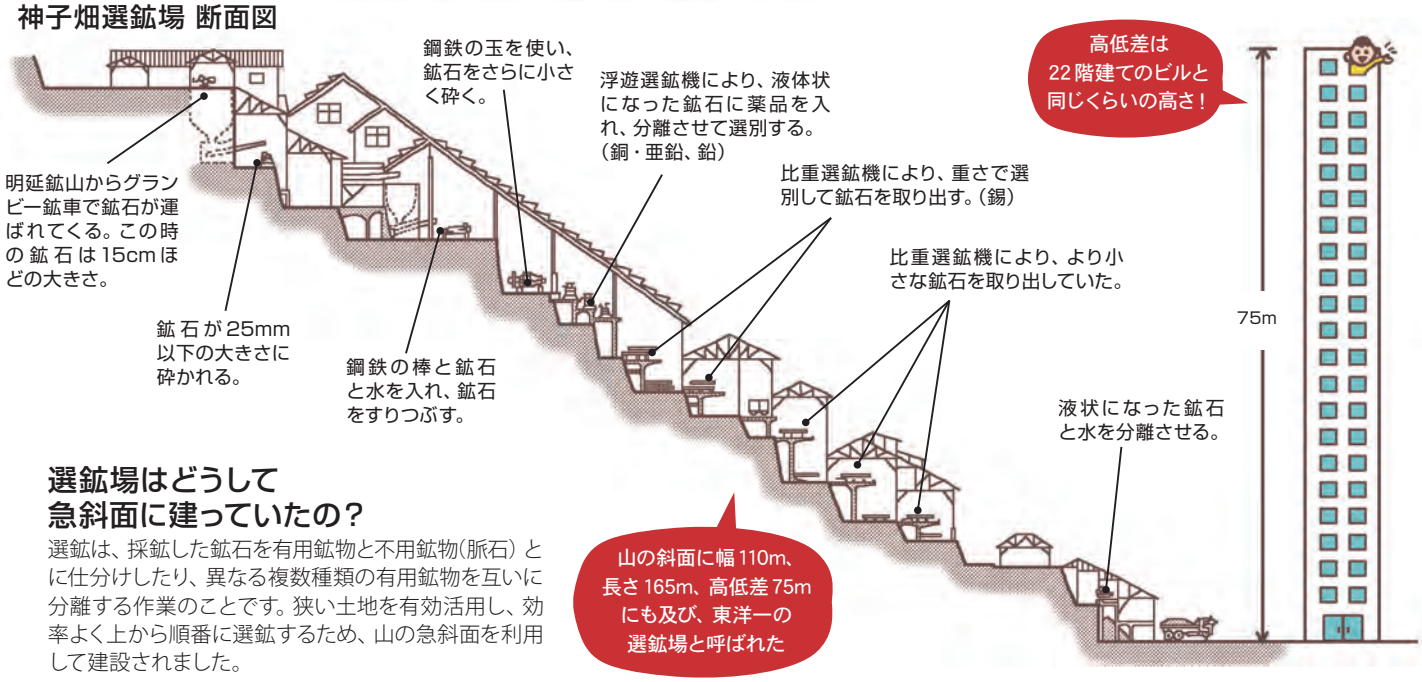


円錐の形にはこんな秘密があったんだね！

インクライン

傾斜面にレールを敷いて、動力で台車を動かして貨物を運ぶ装置のことをインクラインといいます。ケーブルカーと構造は同じで、貨物用の場合、特にインクラインと呼びます。神子畑選鉱場は傾斜地に作られていたので、各フロアの物と人の移動を担っていました。巻き上げ機で台車を２つ繋いで斜面を往復していました。操作は頂上の操作室で行われ、線路の真中が複線になって対向できるようになっています。

神子畑選鉱場 断面図



選鉱場はどうして急斜面に建っていたの？

選鉱は、採鉱した鉱石を有用鉱物と不用鉱物(脈石)とに仕分けしたり、異なる複数種類の有用鉱物を互いに分離する作業のことです。狭い土地を有効活用し、効率よく上から順番に選鉱するため、山の急斜面を利用して建設されました。

山の斜面に幅110m、長さ165m、高低差75mにも及び、東洋一の選鉱場と呼ばれた

●近隣ガイド

さのう高原

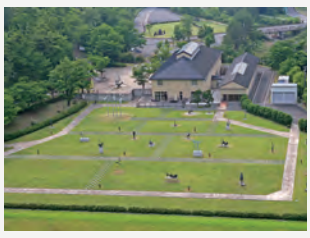
中国山脈の美しい山々を眼下に、パラグライダーの絶好のフライトエリアとして知られる高原です。標高400mの一帯にパターゴルフ場やナイター設備付テニスコートもあり、ログハウス４棟や馬場山キャンプ場(車の横付け可)を拠点に、大自然の中でたっぷりと遊べます。総合窓口の「スカイビラさのう」には、宿泊室・研修室・食堂・大浴場などが完備されています。

[所] 兵庫県朝来市佐のう66-1
[時] 9～16時 [休] 水曜休館
[問]スカイビラさのう 079-677-1855

道の駅 あさご

地元の特産品が揃う村おこしセンター、お食事処「ささゆり」、木工クラフトセンターなどがあります。冬の岩津ねぎなど、地元のとれたて野菜が並ぶ朝市は人気があります。昭和61年のオープン以来、人気メニューの「鹿焼肉定食」は脂肪分が少なく、あっさりとしていて、女性にもオススメです。

[所] 兵庫県朝来市多々良木213-1
[時] 物産・野菜販売店：8～18時、レストラン：9時30分～16時
[休] 1/1休館
[問]079-678-0808



あさご芸術の森美術館

多々良木ダムの下に広がる緑深い静けさの中に、大きなモニュメントが溶け込んだあさご芸術の森があります。美術館では、朝来市が生んだ日本を代表する彫刻家・淀井敏夫のほぼ全作品を常設展示する他、企画展示などを行っています。

[所] 兵庫県朝来市多々良木739-3
[時]10～17時(6～8月は9時30分～17時／入館は閉館の30分前まで)
[休]水曜及び祝祭日の翌日・展示替え日
[料] 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生200円
[問] 079-670-4111

国史跡 竹田城跡

山城遺跡として全国でもまれな完存する遺構であり、天守台は標高353.7mの山頂に築かれています。現存する遺構は、赤松広秀の入封(天正13年)後、文禄、慶長期に作られたものと考えられています。別の名を"虎臥城"とも呼ばれ、国の史跡に指定されています。秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に朝霧が発生し、雲海は但馬地域の風物詩になっています。

[所] 兵庫県朝来市和田山町竹田
[問] 情報館 天空の城
079-674-2120

CONTENTS

第五章 生野鉱山（いくの）

開坑1200年の歴史

日本でも有数の銀山として知られる生野鉱山は、大同2年（807）に開坑したと伝わっています。

『銀山旧記』によれば、天文11年（1542）に城山の南表で銀鉱脈が発見されたのをきっかけとして、但馬守護・山名祐豊が、石見銀山から当時の先進技術を導入して採掘を始めたと記されています。以後、山名氏から織田信長、豊臣秀吉、徳川家康へと経営が移管し、時の支配者の直轄地として銀山開発が盛んに行われました。

江戸時代には生野奉行所が置かれ、享保元年（1716）に生野代官所へ変わると、以後、28代の代官が任務に就きました。

生野で採掘された銀は、朝鮮の綿布や中国の絹と交換貿易されるなど、日本の代表的な輸出品として海外からも注目されるようになりました。天下の台所・大坂の貨幣経済や文化にも大きな影響を与えています。

中でも出鉱量の多い坑道には、生野奉行所から「御所務山」の称号が与えられ、これを祝して山師（鉱山の経営者）は、「御見石」の山車

明治期に建てられた職員宿舎は一般公開されている。

COLUMN

生野義挙（生野の変）

文久3年(1863) 10月の生野義挙（生野の変）の事跡を後世に伝えるため、昭和15年(1940) に代官所跡地に碑が建立されました。生野の変は勤王の志士と但馬の農民が一緒になって生野代官所を占拠した事件です。わずか3日で破陣となり、明治の世まで生き延びた者は数人にすぎませんでした。この生野義挙は明治維新の先駆けとなったといわれています。生き延びた人物の中には、京都府知事の北垣国道や実業家で知られる原六郎がおり、明治の近代化に貢献しました。

生野鉱山全景。世界の最新技術を備えていたため、全国各地から視察に訪れた。（明治9年頃）

を引き回しました。当時は銀山七か町といわれ、7つの町が銀山と密接な関係を保ちながら発展していきました。

日本最初の官営鉱山

明治元年（1868）9月、生野鉱山は日本最初の官営鉱山となりました。日本の近代化を牽引する模範鉱山となったのです。

フランスから御雇（おやとい）外国人と呼ばれる鉱山技師や、新政府の有能な人材が生野に集いました。

中でもフランス人技師・コワニエと、薩摩（さつま）出身の鉱山局長・朝倉盛明（あさくらもりあき）は、世界に誇る壮大な鉱山開発を計画し、生野鉱山の発展に多大な貢献をしました。西洋から最新の鉱山設備が導入され、明治9年、世界でも有数の近代的な鉱山工場群が誕生しました。コワニェは教育にも力を入れ、明治2年に開設された生野鉱山修学実験所（後の生野鉱山学校）の教授も兼任しています。

この時、鉱山施設、動力用水路、鉱石輸送路、職員宿舎などが市街地と融合して建設され、全国でも珍しい独特の鉱山町を形成しました。

明治22年に宮内省御料局の所管となり皇室財産に編入。明治29年には三菱合資会社へ経営が譲渡され、昭和48年（1973）の閉山まで日本の鉱業振興の中核を担いました。

市川沿いのトロッコ道を走る電気機関車（大正9年頃）

COLUMN

生野にあった異人館（外国人宿舎）

明治維新の後、日本初の官営鉱山となった生野鉱山には、御雇外国人と呼ばれる鉱山技師たちがフランスから訪れました。明治5年（1872）、生野には5棟の異人館（外国人宿舎）が建設され、彼らはここで生活をしました。また、現在も残る一区公民館（旧生野警察署）は、これらの洋風建築を模して日本人が建てたもので、生野の洋風文化を今に伝えています。

生野にあった異人館（外国人宿舎）、奥側がムーセ旧居

史跡生野銀山

昭和49年に観光施設として（株）シルバー生野が開業し、一部が観光坑道として一般公開されています。

全長約1キロ、往復約40分の内部は採鉱作業を再現し、近世から近代までの移り変わりを分かりやすく紹介しています。

また、毎日1回・13時30分からのボランティアガイドと巡るツアーも人気があり、より詳しく生野銀山の歴史を知ることができます。

平成19年（2007）には、銀鉱脈が発見されてから1200年を迎え、「生野銀山開坑1200年事業」が盛大に行われました。

さらに、平成23年3月には、施設内にある「生野鉱物館」が「生野銀山文化ミュージアム」としてリニューアルオープン。鉱山の歴史や地域文化についてのパネル展示の他、800点以上の鉱物標本を公開しています。

ピーク時の昭和30年には人口1万1083人を数え、操業時の坑道は深さ880メートル、総延長は約350キロ、採鉱した鉱石の種類は70種以上にも及んでいます。

生野には鉱山施設やトロッコ軌道跡（鉱山鉄道）など、今でも数多くの産業遺産が残り、一般公開されている建造物も多くあります。

石組みで築造された観光坑道入口（金香瀬坑口）

史跡生野銀山の観光坑道（シルバー生野）

WALK MAP

口銀谷 くちがなやMAP

1 生野書院

旧家の面影を残す重厚な佇まいの郷土資料館である生野書院。古文書や生野町絵図、銀山旧記など、生野の歴史を伝える貴重な史料類を保存、展示している。
＊無料、9時30分～16時30分、月曜休館(祝日の場合は翌日)
(問)079-679-4336

旧生野警察署(一区公民館) 6

旧生野警察署は異人館をまねた左右対称の擬洋風建築物。地元の大工、杉浦嘉作が洋館を模して明治19年に建設。正面の軒瓦下には警察の紋章と生野の旧町章が残されている。三角ペディメントに軒蛇腹と、ドアが2つ左右対称に設置されているのが特徴的。現在は一区公民館として活用されている。

駅前にある旧日下旅館は明治43年に建設。大正10年に木造の三階建てに増築された国登録文化財。

寺町通りには8ケ寺あり、教徳寺(写真)ではカラミ石が塀や階段に使用されている。

井筒屋の裏手の駐車場・公園には、生野瓦(赤瓦)やカラミ石がモニュメント化されている。

口銀谷銀山町ミュージアムセンター 4

古民家を活用した観光交流施設。趣のある書院造りの建物では、むくり(ゆるやかな弧を描いた屋根)のある入母屋屋根などを見学できる。
＊無料、9～17時、月曜休館(祝日の場合は翌日)(問)079-670-5006

口銀谷 町並み散策ガイド

地元のガイドが生野の口銀谷地区を案内。1時間～2時間半にかけて5つのコースがある。電話予約にて事前申込。
＊1人100円(マップ料)、定員20人
(問)生野まちづくり工房井筒屋
079-679-4448

散策ガイド

旧生野鉱山職員宿舎

5 志村喬記念館

官営生野鉱山に勤務していた官吏の旧宿舎。漆喰の土塀に囲まれ、口銀谷の町家とは異なる趣を残す。俳優・志村喬も鉱山社宅で育ち、1棟は記念館になっている。
＊無料、9～17時、月曜休館(祝日の場合は翌日)(問)079-670-5005

生野まちづくり工房井筒屋

3

井筒屋は江戸時代に公用で生野代官所を訪れた際に宿泊が必要となったときの「郷宿」。江戸からの巡見使など要人が泊まった記録が残っている。現在はギャラリーや住民の交流の場だけでなく、観光客の憩いの場としても活用されており、昔の史料やおもちゃなど貴重な品々が展示されている。紅茶クッキーのふるまいや、手作り小物の販売もある。
＊無料、9～17時、月曜休館(祝日の場合は翌日)
(問)079-679-4448

WALK MAP

奥銀谷 おくがなやMAP

江戸期に発展した奥銀谷にはうだつを掲げた白壁、格子窓の旧家といった町家が残る。周辺には、山師といわれる鉱山経営者たちも住んでいた。

生野周辺MAP

7 市川の対岸沿いには、鉱石を運んだトロッコの軌道跡が残る。山の斜面には坑口が点在している。

市川に点在する「淘(ゆ)り池」跡。汰物師(ゆりものし)という女性たちは、この穴に溜まった石くずを選別して、少しでも生活の足しになるように売っていた。

国道429号沿いの山肌にある江戸時代の坑道跡。手堀りによるもので、至る所で見られる。

赤瓦の趣のある古民家（小野町）

平成23年にリニューアルオープンした生野銀山文化ミュージアム。生野鉱山の歴史と地域文化のパネルや鉱物標本を展示。

史跡生野銀山では1,200年の歴史とロマンを感じることができる

近隣ガイド

道の駅 フレッシュあさご

播但連絡有料道路のサービスエリアとして、また、国道312号から3分という位置にある道の駅です。地元の農産品や名産品の販売コーナーやレストランなどがあります。

［所］兵庫県朝来市岩津96
［時］8時40分～20時、レストラン：9～20時(L.O19時25分)
［休］無休 ［問］079-670-4120

黒川温泉 美人の湯

美人の湯として知られている日帰り温泉施設。お食事処も併設していて、ボタン鍋や生野ハヤシライスを楽しむこともできます。

［所］兵庫県朝来市生野町黒川457-1
［時］11～20時(5～9月)、11～19時(10～4月) ［休］水曜(祝日の場合は営業)
［料］大人600円、小学生300円、幼児(0歳～)100円 ［問］079-679-2067

史跡生野銀山 観光坑道 - DATA -

1,200年前の銀発見から昭和48年の閉山に至る歴史を伝える「史跡生野銀山」は、地底に繰り広げられた壮大な文化遺産。坑道内は年間約13℃と涼しく、約1キロに渡り明治以降の近代的坑道と江戸時代以前の手掘の跡を同時に見学できます(※団体客には無料ガイドあり・要予約)。さらに広大な銀の露天掘跡、鉱山資料館、吹屋資料館、生野銀山文化ミュージアムなど、見所いっぱいです！

◆兵庫県朝来市生野町小野33-5
◆大人900円・中高生600円・小学生400円・小学生未満無料
◆4～11月：9～17時(※冬季は変動あり)
◆年末年始・12～2月のみ火曜休館(祝日は翌日)
◆毎日1回、13時30分より無料ガイド案内あり
(問)株式会社シルバー生野 079-679-2010

第六章

CONTENTS

鉱山の暮らしと文化

鉱山特有の町並み

JR生野駅西口

生野瓦【生野】

生野の寒冷な気候に耐えられるように、普通の瓦より硬く焼いた瓦で、カラミ石と同様に生野特有の景観を造り出しています。通称「赤瓦」とも呼ばれ、赤褐色の独特の風合いは、レトロな町をいっそう際立たせます。新設されたJR生野駅西口や、平成22年度に復元工事が行われた「旧生野鉱山職員宿舎」の一部には復元された生野瓦が使われています。

カラミ石【生野】

銅などを製錬する時にできたカスを固めたもので、鉱滓（こうさい）といいます。地元では「カラミ石」と呼んでいます。生野鉱山周辺の家の土台や塀、水路、公園のベンチなどで使用されています。各辺数10cmの直方体に成形されたカラミ石は、重さ約100kgにも及びます。口銀谷地区の但馬口番所跡近くにはカラミ石の井戸があります。

マンホール【生野】

生野の町を散策する際には、足下にも気を配って歩いてみましょう。マンホールには、旧生野町時代の町木「ドウダンツツジ」、同じく町花「リンドウ」、観光名所「魚ヶ滝」、そして史跡生野銀山の「金香瀬抗口」がデザインされています。

鉱山施設

菊の御紋【生野】

明治9年（1876）に完成した生野鉱山新工場の正門は、昭和52年、シルバー生野（史跡生野銀山）に移転して保存されています。大小2組の門柱で、大柱は幅・奥行ともに1m、高さは4.6mあって、メートル法で作られています。コワニェによる設計で、明治政府の所有を示す「菊の紋章」が入っています。鉱石の道エリアには、他にも官営や皇室財産であったことを示す「菊の御紋」の入った施設が残っています。

トロッコ軌道跡【生野】

生野の町を走っていた馬車鉄道を廃止して、大正9年（1920）に電車軌道として完成しました。市川にアーチ形に石垣を積んで、川に張り出して線路を確保。今もその美しい姿を見ることができます。当時は生野鉱山本部から生野旧駅までを、アメリカ製の6トン電気機関車が500ミリ軌道で結びました。現在、軌道の残る遊歩道として整備しています。

現在の旧北星社宅

坂ノ谷プレコン社宅

明延鉱山住宅【明延】

昭和11年（1936）頃に建設された北星社宅は現在も4棟が残っており、通称「長屋」と呼ばれています。3つの鉱山全てにこうした社宅群が建てられました。明延では7地区に次々と社宅が建設され、昭和29年頃からは最新鋭の住宅としてプレコン2階建、3階建の住宅が建ちました。北星社宅の景観は、国内でも他の地域に残っていない貴重なものです。

岩津ねぎ【神子畑】【生野】

岩津ねぎは、江戸時代に生野銀山の役人が京都からネギの種子を持ち帰り、鉱山従事者の冬の生鮮野菜として栽培を始めたことがきっかけといわれています。現在では、博多の「万能ねぎ」、群馬の「下仁田ねぎ」と並ぶ日本三大ねぎとして、その名が知られています。朝来市の冬の特産品(11月下旬～3月上旬)として、市内の道の駅、国道312号沿いの直売所などで販売しています。

ハイカラな食文化

レトルトには昭和30年代と昭和40年代の2種類ある

※店舗によって異なります
(写真：ロクログ)

ハヤシライス【生野】

生野鉱山が最盛期を迎えていた昭和30～40年代、都会から転勤してきた鉱山職員の社宅にはハイカラなものがたくさんありました。ハヤシライスもそのひとつで、洋食が珍しかった当時、生野の子どもたちにとって赤褐色の食べ物は強く印象に残ったといいます。現在、復刻ハヤシライスの提供店が点在しており、当時の味をベースにした各店オリジナルの味が楽しめます。また、お土産用にレトルトパックも販売されています。

鉱山町のお祭り

生野踊り(盆踊り)【生野】

生野踊りは京都から移住してきた山師(江戸時代の鉱山経営者)が、盂蘭盆会の際の娯楽として、また、鉱山で亡くなった人への供養の盆踊りとして、都から踊りの師匠を招いて振り付けさせたことが始まりといわれています。「尺八」「三味線」「太鼓」「くどき」で構成されている行列踊りで、明治時代にはこれらの鳴り物の他に、「鐘」「小鼓」が加わっていました。

一円電車せんべい【明延】

「鉱石の道」明延実行委員会では、「鉱山せんべい」を復刻させたのに続き、第2弾となる『一円電車せんべい』を、「あけのべ憩いの家」・「あけのべ自然学校」で販売しています。焼印は鉱山従業員が生活雑貨などを買い揃えていた「購買会」のレジ袋の絵柄で、険しい山あいを勇ましく走り抜ける客車が印象的です。往時をしのぶ土産品として、注目を集めています。

1袋(3パック入) 900円

鉱山の風習

史跡生野銀山
観光坑道入り口

山神社(山神さん)

日本の鉱山には山で働く人々の安全と発展を祈願して、山の神が祀られています。3つの鉱山も同様で、鉱山の神様である愛媛県の大三島に鎮座する大山祇神社より分霊をいただき、山神社の社殿が建設されて御神体が安置されました。人々は「山神(さんじん)さん」と親しみを込め、毎年、春の大祭には鉱山も休業となって「山神祭」が開かれ、立派な神輿が町内を練り歩きました。また、各坑口の上部にも山神さんが祀られています。

明盛共同浴場(第一浴場)【明延】

国の近代化産業遺産にも認定されている「明盛共同浴場(第一浴場)」跡。かつては6カ所も浴場がありました。「場」の文字が旧漢字なのも時代を感じさせます。鉱山生活者の共同浴場で、入浴料は無料でした。当時は芋の子を洗うような混雑ぶりだったそうです。現在は明延ミュージアム「第一浴場」として明延鉱山の鉱石や道具類を展示しています。

羽渕(はぶち)鋳鉄橋【神子畑】

神子畑鋳鉄橋と同じく、明治16年(1883)に始まった鉱石運搬用道路の建設時に作られた鋳鉄製二連の橋。「羽渕のめがね橋」とも呼ばれ、美しい洋式の橋です。平成7年(1995)に架橋時の姿に復元し、現在の場所へと移設されました。(兵庫県指定重要文化財)

鉱石の道ゆかりの人物

御雇外国人

コワニェ
鉱山技師兼鉱学教師として、明治元年にフランスから生野鉱山へ招聘されました。生野鉱山の調査や施設の近代化などに力を入れました。明治10年に数々の功績を残して後をムーセに託し、フランスへ帰国しました。

シスレイ
コワニェの妻の弟。生野から姫路飾磨港を結ぶ、日本で初めての高速産業道路「生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)」の工事総監督として尽力しました。

ムーセ
コワニェの右腕ともいわれ、明治4年に技師として生野へ赴任しました。コワニェ帰国後は生野鉱山技師長となり、輝かしい功績を残しています。

レスカス
「生野鉱山寮馬車道」の設計や、異人館の設計監督を行いました。他方、愛知県明治村にある西郷従道邸や三菱倉庫などの設計も手がけています。

鉱山の技術者

勝部 郁男（かつべ いくお）
一円電車「くろがね号」「白金号」の設計者。後に大手興産(現・三菱マテリアルテクノ)の社長となりました。くろがね号は昭和24年、白金号は昭和27年の完成。製作は明延鉱山工作課神子畑機械工場。

作家

立松 和平（たてまつ わへい）
生野、足尾で腕利きの鉱夫として活躍した曾祖父をモデルに小説『恩寵の谷』を執筆。

政治家

山田 顕義（やまだ あきよし）
長州藩出身で、明治の政治家。初代司法大臣、日本大学、國學院大学の創設者。生野義挙で自刀した親族の河上弥市(南八郎)を慰霊後、生野鉱山視察中に倒れて急逝しました。

伊藤 博文（いとう ひろぶみ）
初代内閣総理大臣。明治9年の生野鉱山新工場落成式に、工部卿として同地を訪れています。

浅田 貞次郎（あさだ ていじろう）
生野出身で衆議院議員として活躍し、播但鉄道建設や生野銀行設立に貢献。明治29年の鉱山民間払い下げの際には恩賜金の確保に尽力しました。

朝倉 盛明（あさくら もりあき）
本名は田中静吾で薩摩出身。イギリスとフランスに留学し、英語や鉱山学を学びました。コワニェの通訳をしながら生野鉱山の調査に関わり、宮内省御料局理事や生野支庁長などを務めました。

鉱山の経営

大島 道太郎（おおしま みちたろう）
岩手県盛岡出身。ドイツの鉱山学校へ留学し、日本各地の鉱山開発に従事した金属工学者。生野鉱山技師を務め、「生野鉱山鉱業改良意見書」を提出。生野鉱山鉱夫共済組合の設立にも関わりました。

生野出身の三画伯

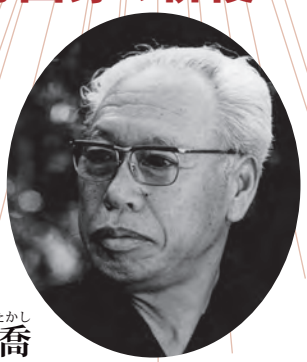
生野には鉱山の影響で日本各地から人や物の交流があり、最先端の文化や情報が入ってきました。日本の近代洋画壇を代表する3人の画家が生野で生まれています。

白瀧 幾之助（しらたき いくのすけ）

和田 三造（わだ さんぞう）

青山 熊治（あおやま くまじ）

生野出身の俳優



志村 喬（しむら たかし）
日本映画史に残る名優。生野の社宅で生まれ、少年時代を過ごしました。名作『生きる』『七人の侍』など、黒澤明作品には欠かせない役者として活躍。そのいぶし銀の演技は、国内外から高い評価を得ています。昭和48年の帰郷の際には、生家の鉱山社宅にも訪れ、幼い頃の思い出を語りました。

鉱山の関係者

中江 種蔵（なかえ たねぞう）
豊岡市出身で鉱山司として生野鉱山に赴任し、コワニェらと鉱山の開発に尽力しました。「中江済学会」という育英基金を創設しました。

広瀬 宰平（ひろせ さいへい）
別子銅山総支配人、初代住友総理人。生野でコワニェより火薬を使った近代的採鉱法を習得。コワニェを招き、別子銅山の近代化を成し遂げました。

高島 北海（たかしま ほっかい）
本名は高島得三。生野鉱山で学んだ経験から、日本初の独自で作成された地質図『山口県地質図』『山口県地質分色図』を制作しました。

和田 維四郎（わだ つなしろう）
日本最初の鉱業法典『鉱業条例』を制定。明治28年に宮内省御料局生野支庁長に任ぜられ、生野鉱山払い下げの件に携わりました。貴重な鉱物標本「和田コレクション」は、史跡生野銀山の生野銀山文化ミュージアムで公開されています。

口銀谷町並み散策ガイド

CONTENTS

第七章

これからの鉱石の道

日本の鉱山史を体感・体験できる歴史文化ミュージアム

国の近代化産業遺産「鉱石の道」エリアは、日本有数の鉱山として古くから栄え、明治以降は日本の近代化を支えた大鉱山でした。

鉱山遺跡や古い町並み、鉱山独特の文化などが色濃く残り、日本で唯一、中世から近現代の鉱山の歴史、技術、生活史の変遷をたどることができる「歴史文化ミュージアム」ともいえる地域です。

「鉱石の道」の活動

養父市、朝来市、兵庫県では、地域のみなさんと一緒になって、鉱山遺産の活用をはかりながら地域活性化に取り組むため、平成19年（2007）に「鉱石の道推進協議会」を設立しました。

推進協議会では、「鉱石の道」の歴史、文化、景観が持つ価値や魅力を地域内外へ情報発信するとともに、それぞれの地域でも鉱山をより身近に体感できる体験坑道や、一円電車の体験運行、ボランティアによる町並み散策ガイドなど、様々な活動が進められています。

また、兵庫県中播磨地域の「銀の馬車道ネットワーク協議会」との連携をはじめ、他の様々な地域資源との連携による新たなツーリズムの創出にも取り組んでいます。

地域の元気を再び

私たちが暮らす地域に残る鉱山の歴史、文化、景観などは未来へ伝えるべき大切な地域の「誇り」であり、「宝物」です。

こうした鉱山施設の一部は、今も現役の産業施設として稼働するとともに、観光、体験学習施設としての活用も進められています。さらに元気な町づくりに取り組む人々が活躍し、暮らしを営んでいます。これら全てがまさに、鉱山の歴史や生活史を貴重な地域遺産として未来に伝え、活用する活動なのです。

鉱石の道推進協議会は、行政・企業・地域のみなさんと一緒にこれらの地域遺産を生かした多彩な交流や活性化の取り組みを進め、「地域の元気」を再び取り戻すための活動を進めていきます。

主な地域の活動例

明延鉱山探検坑道のガイド案内

◆**鉱石の道推進協議会**…鉱石の道の価値、魅力の情報発信と地域活性化活用の推進
◆**「鉱石の道」明延実行委員会(養父市明延)**…明延探検坑道、一円電車の保存、活用
◆**中瀬金山会(養父市中瀬)**…中瀬金山・金山町の保存、活用
◆**神子畑区(朝来市神子畑)**…神子畑選鉱場跡地の公園、神子畑鋳鉄橋の保存活用
◆**口銀谷の町並みをつくる会**…ボランティアガイドや鉱山文化の情報発信
◆**NPO法人いくのライブミュージアム**…鉱山町の写真収集とデータ保存
◆**生野まちづくり工房井筒屋運営委員会**…井筒屋の管理とひな祭り等地域活性化活動
◆**甲社宅運営委員会**…旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館の管理とイベント運営
◆**南の浅田邸管理委員会**…口銀谷銀山町ミュージアムセンターの管理運営
◆**生野ひいきの会**…会員制まちづくり基金による地域イベントなどの支援
◆**銀谷祭り実行委員会**…銀谷祭りの開催
◆**へいくろう祭り実行委員会**…生野銀山へいくろう祭の開催

※地域の活動をさらに活性化するためのNPO法人化に向けた取り組みも進んでいます。

朝来市マスコットキャラクター
「ちゃすりん」

アクセスマップ

養父市イメージキャラクター
「やっぷー」

JR

大阪駅～生野駅	約2時間
三ノ宮駅～生野駅	約1時間35分
姫路駅～生野駅	約50分
大阪駅～八鹿駅	約2時間20分
三ノ宮駅～八鹿駅	約2時間20分
姫路駅～八鹿駅	約1時間20分

車

大阪(中国吹田IC)～生野	約1時間20分
神戸(神戸三田IC)～生野	約50分
姫路(姫路JCT)～生野	約30分
大阪(中国吹田IC)～養父IC	約1時間50分
神戸(神戸三田IC)～養父IC	約1時間20分
姫路(姫路JCT)～養父IC	約1時間

◆明延へのアクセス
JR山陰本線「八鹿駅」下車→全但バス「明延」行きで約1時間／北近畿豊岡自動車道「養父IC」より県道6号養父宍粟線で約30分

◆神子畑へのアクセス
JR播但線「新井駅」下車→市コミュニティバス(月・金のみ)「神子畑」行きで約20分／播但連絡道路「朝来IC」より国道429号で約15分

◆生野へのアクセス
JR播但線「生野駅」下車／播但連絡道路「生野」出口すぐ

◆中瀬へのアクセス
JR山陰本線「八鹿駅」下車→全但バス「中瀬」

主な関連イベント情報 ※赤字は鉱石の道関連イベント

3月上旬	銀谷のひな祭り(朝来市生野町)
4月第2日曜	天滝まつり(養父市大屋町)
4月中旬	鉱石の道 神子畑桜まつり(朝来市佐のう)
	生野銀山へいくろう祭り(朝来市生野町)
4月29日	ミズバショウ祭り(ミズバショウ公園／養父市大屋町)
5月上旬	銀谷のわらべ(朝来市生野町)
6月下旬～	うちげぇのアートおおや(養父市大屋町)
7月7日頃～	銀谷の七夕(朝来市生野町)
8月中旬	生野夏物語(朝来市生野町)
8月15日	大屋ふるさと祭り(養父市大屋町)
8月16日	大杉ざんざこ踊・若杉ざんざか踊(養父市大屋町)
9月中旬	中瀬金山まつり(養父市中瀬)
9月第4日曜	銀谷祭り(朝来市生野町)
9月下旬	公募展木彫フォークアートおおや(養父市大屋町)
10月中旬	生野秋祭り(朝来市生野町)
	但馬食文化まつり(和田山中央文化公園／朝来市和田山町)
10月第1日曜	あけのべ一円電車まつり(養父市大屋町)
11月3日	天滝もみじ祭(養父市大屋町)
11月下旬～1月上旬	生野イルミネーションロード(朝来市生野町)

鉱石の道 神子畑桜まつり

生野銀山へいくろう祭り

銀谷祭り

あけのべ一円電車まつり

問い合わせ

朝来市役所朝来支所	079-677-1165(代)
朝来市役所生野支所	079-679-5802
朝来市あさご観光協会	079-677-1165(代)
生野町観光協会	079-679-2222
和田山町観光協会	079-674-2120
養父市役所大屋地域局	079-669-0120
養父市立あけのべ自然学校	079-668-0258
養父市役所関宮地域局	079-667-2331

〈発 行〉鉱石の道推進協議会 〈制 作〉株式会社キャメル 鉱石の道 検索 日本遺産 わだち 検索
〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町7-11 兵庫県但馬県民局 地域政策室地域づくり課内 TEL.0796-26-3676
【鉱石の道公式サイト】http://www.koseki-michi.com/ 【日本遺産「銀の馬車道 鉱石の道」公式サイト】http://wadachi73.jp/
発行:2020年3月